



◆4月からの新しい上履きを配布しました！

3月16日（火）日本教育シューズ（JES）様の協力を得て、1～5年の全児童に4月からの新しい上履きを配布しました。当日は JES さんから日本教育シューズ協議会理事長 早川家正さんとシューズフィッターの武原充宣さん、谷内 博さんにお越しいただき、一人一人の足長と足幅を計測した上、シューズをフィッティングし上履きを配布しました。真新しい上履きを渡された児童からは「ありがとうございます！」「かっこいい！」と嬉しそうな声が聞かれました。このシューズは JES により今回開発された新シューズです。片側ベルトの靴は従来からよく見られますが、この上履きは両側からベルトで止めるため、紐靴のように足をしっかりとホールドすることができます。渡された上履きは現在の足のサイズに合ったものです。上履きを大きめに購入される家庭も多いようで、最初はきつく感じる場合もあります。足の成長に合わせ、サイズ交換もしますのでご安心ください。中敷きにサイズ替えの目安ラインがありますのでご確認いただき、交換が必要な場合は担任へご連絡ください。



日本教育シューズ JES の皆さん
谷内さん 早川さん 武原さん

◆靴の履き方に注目！

16日の計測日に児童の様子で気になったのが、靴の履き方です。現在使用している上履きはすぐに足の出し入れができる靴のため、足を入れるとつま先をトントンして履いたり、足でかかとを踏んで脱いだりしている様子が多く見られました。本来は靴を履いた後、足をかかと側に寄せられ、足指側にゆとりをつくるのが大切です。そのため、靴を履いたら、かかと側をトントンして足を靴に合わせ、両側のベルトをギュッとしめる。つまり「ベリベリ（マジックテープを外す）・トントン（かかと側に足を合わせる）・ギュウ（ベルトを両側からしめる）・ピタ（マジックテープをつける）」が正しく靴を履く合言葉です。また、靴を脱ぎ履きする際もしっかり靴のかかとを手で押さえて脱ぎ履きする習慣が大切です。4月から学校全体で靴の履き方を指導していきます。ぜひご家庭でもお声掛けいただき、正しい靴の履き方を習慣化してください。

